

# 「査証業務から見える訪日中国人の動向」

安田 吉宏氏

在上海日本国総領事館 領事

2017年10月講演

## 1. ビザは入国するための推薦状

査証業務から見える訪日中国人の動向について、お話しいたします。査証とはビザのことです。なお、これからお話しする内容はあくまでも私の個人的な意見や見解であり、外務省の見解ではないことをお断りしておきます。

まず、上海総領事館の概要をご説明します。当館の管轄地域は上海市、江蘇省、浙江省、安徽省、江西省の4省・1直轄都市です。ちなみに、中国のその他の地域は、北京にある大使館および広州、重慶、瀋陽、大連、青島、香港にある各公館でカバーしています。

当館には、公館長である総領事がトップにいて、総領事を補佐する首席領事、首席領事の下に総務部、政治部、經濟部、広報文化部、領事部の5部門があります。私が所属している領事部は、日本人向けのサービスを提供している部署と、中国人および中国在住の外国人にサービスを提供している部署の二つに分かれています。日本人向けのサービスでは、在留邦人援護やパスポートの発給、日本人学校の支援、在外選挙などがあります。私は、中国人などに査証を発給する部署に所属しています。

査証＝ビザとは、日本に入国するための推薦状のようなものです。入国の可否を決定するのは法務省入国管理局です。日本が承認している世界195の国または地域の内、ビザを免除しているのは60数か国です。ということは、残りの約130の国または地域の方が日本に入国しようと思ったら、ビザが必要になります。ビザを持っていなかったら、原則として日本に入国できません。それ以前に、外国の空港で日本に向かう航空機に乗ろうとした時点で、搭乗券を発券してもらえないでしょう。ビザのない人が日本に来て、入国拒否になったとき、その費用は航空会社の負担になるので、航空会社は必ずビザの有無をチェックしています。

## 2. 在外公館全体の1/3を上海で発給

ビザは目的に応じて9種類ありますが、一般の方が一番なじみあるのが、短期滞在です。観光やビジネスの出張、文化交流、短期の留学や研修などの際に発給するビザです。当館で発給しているビザの大半は短期滞在であり、観光、商用、親族・知人、医療滞在などがありますが、約9割は観光です。最近注目されている医療滞在ビザというものもあります。

また、中国において、小・中学校の生徒が修学旅行で日本に行く場合はビザを免除しています。ただし、単にビザなしでそのまま行けるわけではなく、事前に当館に申請して承認を得た上で、日本のどの空港に何時の便で到着するかを当館から日本の法務省入国管理局へあらかじめ連絡しておくという手続きが必要です。

つい最近、ビザ免除の証書を学校の先生が紛失したので助けてほしいという連絡が入ったことがありました。それがまた運の悪いことに日曜だったために誰もおらず、私が呼び出されて対応しましたが、結局は予定していた日曜の朝の便には乗れず、翌日に日本に向かいました。これほど、ビザやビザ免除の証書がないと入国できない厳しいものです。

さて、中国人向け観光ビザ緩和の変遷をたどってみましょう。中国では、1999年1月に日本向けの団体旅行が解禁されました。そして2000年9月に、団体旅行のビザの発給を始めました。さらに2009年になって、それまで商用などでのみ発給していた個人向けビザが観光目的でも発給するようになりました。そこからは毎年、規制を緩和し続けています。直近では2017年5月に大幅に緩和し、益々、取得しやすくなりました。

当館が発給したビザの件数は、昨年1年間で約174万件に達し、その件数は世界中にある在外公館の中で最大の件数です。10年前の2006年はわずか16万件、先ほどお話しした2009年の個人向け観光の解禁でも30万件に届いていませ

んでした。2010～2013年は、緩和を続けてはいたものの、当時の日中間の諸問題や東日本大震災の影響等で観光客が伸び悩みました。2014年になって、円安および免税品の対象を大幅に拡大したことにより、団体旅行がかなり増加しました。そこから口コミやSNSで評判が広がり、年々倍増する勢いで増えてきたという状況です。2017年の見込みも、昨年を超えて最高の発給件数になるものとみられます。

この174万件がどういう数字かということ、2016年に日本が全世界で発給したビザの件数は約530万件で、うち8割は中国人向けです。世界には大使館や領事館などの公館が200以上ありますが、上海だけで在外公館全体の1/3ということになります。

### 3. 訪日中国人はますます増加

ビザ発給の効果と貢献について、お話しします。日本政府の「ビジット・ジャパン」では、2020年までに訪日外国人を4000万人にするという目標を掲げています。これを達成するには、中国人観光客の訪日が不可欠です。訪日すれば、当然、消費もします。「爆買い」が減ったとはいえ、「大買い」くらいはしているので、日本経済に大いに貢献しています。

今後、訪日する中国人はどうなるのかということ、どんどん増えていくと私は思います。中国人は、マスコミなどの報道よりも知人からの口コミやSNSなどの方を信用する傾向があると聞いております。そういったところに、訪日したときのことが書いてあります。

そもそも、日本に行ったことのない人は日本にいい印象を持っていません。テレビなどでも戦争当時は舞台にしたドラマを放送しており、そこで描かれる日本の印象は良くありませんが、口コミやSNSを見てみると、日本も結構良さそうな感じだとあります。だまされたと思って1回行ってみようという人が、確実に増えています。

さらに、費用も安くなりました。一時期ほどの人民元高・円安ではないものの、人民元に対して円はまだ少し安いという感覚があり、さらに上海と日本の間にLCCが就航して安い料金で行けるようになりました。また、大手航空会社のANAでは深夜便も設けるなど、選択肢が増えています。

しかも、中国人のパスポート取得率は、ちょっと古いデータですが5%程度です。14億人の5%ですから7000万人を超えており、相当な数です。これが米国では30%台、日本では40%台なので、中国の5%がこれからどんどん増えて、仮に50%になったら7億人なので、潜在的にはまだまだ増えていくでしょう。

2016年に海外旅行に出かけた中国人は、香港やマカオに

行った方も含めて1億2000万人に上り、そのうちの600万人が訪日しました。各地の政府や旅行会社といった関係者の話によれば、数年後には7億人くらいになるという試算もあるそうです。現状で600万人なので、同じ割合で計算すると3,500万人が訪日することになります。中国だけで、ビジット・ジャパンがほとんど達成できるくらいです。本当にそこまで増えるかどうかは別としても、現場で仕事をしている私の皮膚感覚でいうと、相当増えると思います。

### 4. 訪日の目的や訪問先が多様化

実際にビザの仕事を通して私が感じていることをお話しします。一つ目として、訪日の目的や訪問先が多様化しています。2009年6月までは団体観光しかなかったものが、個人観光でいろいろなところへ行けるようになりました。また、目的も多様化してきました。例えば、医療ビザを活用したツアー（神戸牛を食べ、ゴルフをプレイし、そして半日の健康診断を受けるツアー）もあるようです。もちろん、日本の医療に対する評価として、医者が丁寧な説明をしてくれるからとても良いという口コミを聞き、日本で検査や治療を受けたいという高いニーズがあります。半日の人間ドックから、ガンの治療や不妊治療のために数年間通う人も医療滞在ビザを取得して訪日しています。

このように医療目的で日本に滞在して、その合間に観光をする人もいます。買い物をしたりゴルフをしたり、中にはユニークな例もあって、スキーに行ってけがをしてまた病院に戻った方もいました。

訪問先は、本当に全国津々浦々です。私が行ったことも聞いたこともないようなところ、北海道から沖縄まで、小笠原諸島にも行きます。趣味で四国八十八カ所霊場巡りをしたいとか、未婚なので縁結びの出雲大社に行きたいという人もいます。このように中国の方は日本の隅々まで行っているようです。

二つ目として、既に日本で起業したり、日本の企業に出資している中国人が多いと感じます。私は商用や文化交流のビザを中心に審査を担当していますが、商談や会議、研修などで日本に招へいする際は、原則、日本在住者による身元保証書が必要となります。中国在住の日本人は身元保証人の対象外ですが、日本に住んでいて、身元保証できる資力があれば、国籍は問いません。そうした状況下で日本にいる中国人の方が身元保証しているケースが増えてきました。招へいする日本側の企業の社長が中国人であったり、大手企業であれば窓口担当者が中国人だったりします。また、中国企業の日本法人が中国から招へいするということもあります。

こうしたことから、私は中国人が日本においてビジネス

で活躍していることを強く感じています。同時に、中国から日本へ非常に多くの方が行っているの、日中は経済的に不可分の関係であることを肌で感じます。

## 5. 最近の短期留学生は経済的に余裕

その他として、例えば1990年代から2000年代の初め頃に日本に留学した中国人のなかには、経済的に苦しい中で借金をして訪日し、何とか頑張った方がいました。それがちょっと頑張りすぎてしまって、在留期間を過ぎても日本に残って仕事を続けて結果、不法滞在となって強制送還された方がいらっしゃいます。

話が少しそれますが、いま中国に進出している日系企業や、日本と取引のある中国の企業で幹部になっている非常に優秀な方の中には、過去に日本で不法滞在をしたために、もう日本には行けない、または行きにくい人がいます。審査するわれわれは、やはり過去に日本で犯罪行為をした人間はあまり入国させたくないという気持ちがあるのは当然でしょう。これは逆に、中国で犯罪行為をして強制送還された日本人が再び中国へ行こうと思っても、中国側としては入国させたくないのと同じです。

ただし、偉そうに言うつもりはありませんが、若い頃に失敗した経験というのは珍しくないと思います。そこで私は、過去に不法滞在をした方からビザの申請があった場合、その方がいま中国でどのように頑張っているのか、再び訪日することが、日本にとってメリットがあるのかといったことを考えます。

なかには、もう永久に日本に行くことが困難な方もいます。よく勘違いされるのですが、中国で入国禁止になって5年10年たったら、また行けると思っている日本人がいますが、それは申請ができるだけであって、実際に入国を許可するかどうかは中国側が決めることです。われわれも同様に、ビザを発給するか否かはこちらで決める問題です。更に入国可否については、冒頭でお話ししたとおり法務省入国管理局が決定する事項です。

過去に不法滞在等で強制送還になった方に対し、私はできる限り面接をします。限られた時間の中ですが、不法滞在の理由や、その時に何を考えていたか、いまはどうかを聞きます。その結果、いまは経済的に安定しているので、訪日しても法に触れるようなことはしないだろうとか、訪日することが日本にとってメリットがあると感じたら、ビザを発給することもあり得ます。

面接では多くの方が、当時は本当に若くて罪の意識もあまりなくて、すみませんでしたとおっしゃいます。不法滞在以外は日本の法律を守って、悪いことはしなかったと断言します。しかし、われわれからすると不法滞在自体がま

ず法律違反だと伝えます。罪の意識はあるものの、不法滞在はあまり悪いことではないと思っている節があるので、不法滞在も悪いことであると強くいいますが、いま頑張っている方には、もう一度チャンスがあってもいいのではないかと思います。

一方、最近の短期留学目的の申請を見ると、経済的に余裕があると感じることがあります。申請時に親の預貯金通帳を添付してくる場合がありますが、本当にこんなにお金を持っているのかと驚かされます。親からは、日本に行ったら一等地に住み、アルバイトをしておかしなほうに行ってもらっては困るからアルバイトはさせたくないという要望もあるようです。

また、つい最近の例では、不法滞在中で強制送還された方から、再び申請がありました。お金がある方だったので、なぜ不法滞在したのか聞いたところ、精神的にまいってしまっただけでずっと引きこもっていたために在留期限が切れてしまったとのことでした。いまは元気になったので、もう一度チャンスがほしいという内容でした。期待を背持って借金をして日本に来た世代からは随分と変わったということを非常に強く感じます。

## 6. ビザ緩和やキャッシュレス対応を要望

中国側の要望について、お話しします。まずはビザ発給の緩和、もっというならビザをなくしてほしいとのことです。現状ではビザがなくなることは考えられませんが、やはりビザが必要だと行きにくいし、急に行けない。例えば急な出張で明日、日本へ行きたいと思っても、ビザがないと行けない。だから、ビザを取りやすくしてほしいとのことです。現在では、マルチビザとして有効期限が1年間、3年間、5年間に加え、訪日目的によっては10年間のものがあります。

また、最近話題になっているのが高齢者の観光ビザです。観光ビザは、日本を訪れる目的ははっきりしているので、あとは本人の経済状況を見て判断します。そうすると、すでにリタイアしている人は、いまの制度では不利になります。無職の場合も不利で、若くして資産を築いてリタイアし、悠々自適の生活を送っているような人からビザの申請があった場合にどう判断するか悩ましいところです。中国では、子どもが親の面倒を見るのは当然という考え方が日本以上にあるため、一緒に考えたらいいのではないかと思います。

個人旅行における柔軟な行動という要望もあります。ほとんどの場合、観光ビザは指定の旅行会社で取らなければならない、宿泊先も自己手配はだめで、その旅行会社に頼まなければならない。民泊したいとか趣のある宿に泊まり

たいといった声に、柔軟に応じてほしいというものです。

支払方法の多様化への対応という問題もあります。ご存じのように、中国は日本以上にキャッシュレス化が進んでおり、電子マネーが普及しています。日本でもクレジットカードが使えるところが増えていますが、未だに現金オンリーとか、クレジットカードで少額の支払いをすることへの抵抗感が残っています。

中国では、どんな場合でも現金をあまり持ち歩かないという状況になっています。中国人の中には、日本に行くと20世紀に戻ったみたいだと言う方もいます。まだ財布を使っていて、日本の空港に着いたら、JRでもバスでも、まず現金が必要になり、SuicaやPASMOも必要です。全てスマートフォンでできるようにならないのか、本当に不便だという声が聞こえてきます。

余談ですが、私の同僚が最近、銀行のキャッシュカードを紛失し、再発行まで1カ月かかると言われました。現金を引き出せないのが困ると思いきや、たまたまWeChat Payに多めに入金していたため、何の問題もなく生活できたということがありました。それくらい変わってきたということです。

日本における中国語環境の充実も求められています。成田空港、羽田空港や関西空港などにある免税店では中国人の店員が対応するし、百貨店やドラッグストアなどでも中国語が通じますが、公共交通機関はまだです。私は今年の国慶節に一時帰国しましたが、神戸の三ノ宮というターミナル駅の隣の元町駅で友人と待ち合わせしたとき、中国人の家族が切符を買えなくて困っていました。小さい子どもと小学生くらいの子どもがいて、これから京都へ行きたいのだけれど、どの切符を買ってどの路線に乗ればいいのか分からないと言うので、手助けしました。

逆の立場で考えると、日本人は漢字が分かるからといって、中国に来た観光客がいきなり蘇州へ行こうと思っても難しい。それと同じで、中国からもっと来日してほしいと思ったら、小さい駅も含めて中国語環境を整備し、旅行しやすくする必要があるのでしょう。

あとは、Wi-Fiが繋がらないというお叱りはよくあります。

## 7. 日本ならではの体験やサービスで癒やされたい

訪日中国人が求めるものは何かというと、まずは「訪日中は自由に行動したい」ということです。いろいろな口コミに接して日本に行ってみたいと思っている人や、1回目は団体旅行で行ったけれど、2回目はもっと日本ならではのものに触れたいと思っている人など、個人旅行のニーズはたくさんあります。

日本が指定するクルーズ船を使えばビザが不要という特例があり、これを利用してかなりの数の中国人が訪日しています。船なので、買い物をしても荷物を持って移動なくていいといったメリットもあります。ただし、福岡や沖縄などに寄港して半日しか滞在しないため、やはり個人旅行で自由行動をしたいという声が寄せられます。

二つ目として、商品の信頼性を求めています。中国から見ると、日本の商品や食べ物は安心だし、食事もおいしい。だから、その信頼を損ねないようにしてほしいということです。

三つ目は、体験型の観光です。どういうことかという、口コミで知ったところへ行ってみよう。先ほどの出雲大社もそうだし、聖地巡礼といって、人気の日本映画やドラマ、アニメなどにゆかりの地を訪れたいというものです。また、北海道のパウダースノーでスノーボードやスキーを楽しみたいとか、沖縄でスキューバダイビングをしたい、または窯元で陶芸を体験したい、着物を着て街を歩きたいといった体験型の観光です。中国人がいま求めているのは、まさにこれではないかと思います。日本のおもてなしのサービスを受けて気持ちよくなりたいのです。

これらを受けて私が考えるのは、中国からの観光客は信頼できて安心であることを前提として、日本ならではの体験をし、日本ならではのサービスを受けることによって精神的に癒やされたいのだということです。彼らは安らぎを求めています。日本人もハワイや沖縄に行つて癒やされたいと言う方がいますが、中国人にとって、日本はすでにそういう対象になっているのです。私は、中国人は日本が大好きなのだと思います。日本に来たことがなく、日本に対するイメージに基づいて嫌っている人もまだまだたくさんいますが、実際に訪日した方は、とてもいいとおっしゃいます。

一部の報道では、外貨の流出を抑えるために団体旅行を制限しようという声も出ていますが、実際にはどんどん増えています。行きたいと思ったら、その心は抑えられないものです。日本に来て買い物をしたいとか体験したいということもありますが、癒やされたいというのが一番ではないでしょうか。やはり、日本が好きなのだと思います。

相手の国を知るためには、相互交流が必要です。中国から年間約600万人が訪日しています。では、日本人はどれくらい中国を訪れているのでしょうか。日本からは、2016年に約250万人です。実は、2007年当時は約400万人でした。この9年間で4割も減っているのに対して、中国からはどんどん増えているというアンバランスな状態です。

冒頭で、日本に入国するためのビザを、60数か国で免除しているというお話をしました。では中国は、短期の観光やビジネス、友人を訪ねるためなどの目的の際にビザを免

除している相手国は、いくつあると思いますか。実はたった3か国、シンガポールとブルネイと日本だけです。一部に例外はありますが、ビジネスや友人に会うために北京や上海を訪問するのにビザなしで中国に入国できるのは3か国しかありません。

これは、日本人にもっと来てほしいという中国側の気持

ちの表れです。そういう中で、このように上海でセミナーを開いていただいたということは非常にうれしいし、感謝しています。中国には良い面も悪い面もあると思います。皆さんは、実際に触れた体験・経験をぜひお知り合いの方々に伝えていただいて、等身大の中国を知っていただきたいと思います。本日は、ありがとうございました。